

神戸市総合基本計画審議会第 2 回総会 議事要旨

- 1 開催日時：平成 22 年 2 月 24 日（水）13：00～15：00（於：神戸国際会館 9 階大会場）
- 2 議事要旨
 - ・会議に先立ち、矢田神戸市長の挨拶の後、事務局よりこれまでの審議経過(資料 2)の説明を行った。
 - ・会長により議事に入る旨の発言があり、事務局に対して資料の説明を求めた。
 - ・事務局より「全体の構成について (資料 3)」及び「神戸づくりの指針素案 (資料 4)」並びに「専門部会での委員意見、関係団体等ヒアリング及び市民意見のまとめ(資料 4 参考資料)」の説明がなされた。
 - ・以下、審議会における委員の主な発言は以下のとおりであった。

【全体の構成等について】

(ユニバーサル社会について)

- ・P24「ともに支えあう社会をつくる」は、ユニバーサル社会のことだと感じたが、第 3 部にユニバーサルデザインの「一人ひとり」、その文章のむすび部分では「ユニバーサル社会」とのキーワードが使われている。「ユニバーサル社会」の言葉を最初に出して大きな概念で表現するほうが良い。

(みなとの今後のあり方について)

- ・神戸は港とともに発展してきたということが書かれているが、今後の港のあり方についてはどう考えているのか、視点が見えづらい。どこに書かれているのか。

(高齢者対策について)

- ・今後 15 万人も 65 歳以上の人が増加することについて、高齢弱者に対する対策、視点が見えないがどう書かれているか。

(事務局)

- ・港については、神戸市は港がまちの発展の原点であり、第 5 部 都市活動を支えるための神戸港・神戸空港の機能強化の意味を持たせ、「総合交通ネットワークの形成」と、第 2 部にも記述している。また、第 7 部「「世界の中での神戸」を確立する」に「みなとを核にして世界に開く」ことを宣言している。
- ・高齢化については、P90にあるように 2005 年から 2025 年にかけて 75 歳以上がほぼ倍に近い数字であり、それと同様の規模の人口減が 15 歳から 64 歳で起こっている。福祉、高齢化の視点は、P20 の第 2 部冒頭で少子・超高齢化の進行など将来に対する不安の高まりに対する早急な取り組みが必要になっているとの記述と、「福祉のセーフティネットや医療、住まい等の充実」で記載している。少子・高齢者に対する視点は全編において書かれている。

【くらしをまもる等について】

(在宅医療の記述について)

- ・P26「安心なくらしをまもる」について、人口動態で 65 歳以上の方が神戸が暮らしやすいから流入するという話を聞く。「ともに進める取り組み」の中で、地域のなかでその人らしく生活できることを支えるための「在宅医療の視点」の記述があるのか。

(健康にかかる記述表現について)

- ・P27 のキ「「自分たちの健康は自分たちでまもる」という理念のもと」とあるが少し言い過ぎで、先天的

な疾患を持った方々は自分の健康は自分でまもれない。「自分たちの健康は自分たちでまもる」という基本的考え」という表現がよい。

(事務局)

- ・ 「在宅医療」は、P24①「支援のしくみのいっそうの充実を図ります」の中で、保健・医療・福祉という表現で総合的・専門的かつ継続的な対応を進めるとし、P25④「地域での支えあいを進めます」では、支援を要する人への支援体制、また、ウで「保健・福祉・医療などの関係者のネットワーク強化」等々など、保健・福祉が一体になった取り組みということで記述している。

【雇用、多様な働き方について】

- ・ P28 雇用のミスマッチの解消、多様な働き方の推進と書かれている。今の状況の中で求められているのは派遣、有期、非正規雇用を改めることであり、正規雇用を当たり前とする社会をめざすと書くべき。また、神戸市の任期付職員に非正規雇用をつくることは改めるべき。
- ・ 働きやすい環境を整えるには、企業に雇用を押しつけ、依存するのではなく、地域の中で安心できる働き方、環境を整えていくことやワーク・ライフ・バランスもその方策の一つである。「社会的企業」という新しい主体が新たな労働市場をつくっていくという考え方もある。正規雇用を当たり前とするとの記述を書き込んでしまうのは難しいと思う。

【経済を発展させる等について】

(中小企業の記述について)

- ・ P32、P33 に市内に圧倒的多数を占める中小・小規模、零細事業者に関して今後どうしていくかの記述が希薄と感じる。ここに書かれている中小企業の記述は非常に強い中小ものづくり企業のことであり、明日の仕事にも困る中小・小規模事業者の現状を踏まえ市として底上げをどうしていくかの記述があってもいい。
- ・ ものづくりは大変重要であると考えており、展望を開いていくというところに重点を置いた記述になっている。今後、底上げといった点を配慮した上で記述を深めていければと思う。

(産業集積に向けた土地利用について)

- ・ P35 企業誘致で、産業集積を図るために六甲アイランドやポートアイランド、空港島の土地利用の転換で産業用地を創出すると書かれている。神戸空港は、市民の半数の反対を押し切ってつくった大型プロジェクトで、包括外部監査でも造成地の売却処分が計画どおりに進んでいないとの指摘もあった。計画どおり進んでいないということを踏まえておくべき。

(産業における行政の役割)

- ・ 福祉・医療は行政で実行できるが、産業、商業、雇用などは民間企業が大きなウエートを占めている。行政がどこまで支えられるのか。例えば、港や中小零細企業などは公共事業で予算執行しないかぎり支えきれないが行政のみでできるわけがない。どうすべきかについて、産業はもっと時間をかけて考えないといけない問題である。

(産業分野の構成について)

- ・ 経済については、「暮らしを支える産業」、「ものづくり産業」、「観光」のまとめ方だけでいいかどうか、もう少し掘り下げた表現があってもいい。それらの点について議論を進めたい。

【ひとを育む、新たな豊かさの創造等について】

(学校教育のあり方について)

- ・ P40、P41「子どもを健やかに育む」⑥⑦について、子どもは3歳から22歳までの20年間は学校で育っている。将来の子どもに対する影響は学校教育が担っている。学校教育のあり方を前面に打ち出せないか。

【まちの安全、低炭素社会等について】

(防災について)

- ・ P50「市民に対して、防災意識の向上を進めます」は最初に位置づけるべきである。やるべきことを先に記述するよりは、神戸の安全の認識がどうかを書いた上で防災意識を高めるといった項目を最初においたほうがよい。
- ・ 地球温暖化イコール低炭素社会の構築というのは緩和の方向に寄りすぎている。P50の課題に、安全・安心の大前提として、温暖化の影響には極端気象が頻繁化、激化するという視野もいれるべきで、防災の記述は、風水害対策、地震対策（南海・東南海地震）という昔ながらのハザードシナリオという印象がある。今後、部会で検討いただきたい。

(低炭素社会について)

- ・ P56「低炭素社会の実現に貢献する産業を振興します」の中で、例えば、カーシェアリング、モノ依存から機能利用することによってサービス利用することなど、IT利用の低炭素型サービス産業の振興を入れてはどうか。
- ・ 省エネ型製品の選択に対する情報提供、エコポイントなどの記述がないので、P56④あたりに促進すると記述してはどうか。
- ・ P56④の低炭素社会に、市民の生活ぶりなどの提案を書けば省エネ生活が進むと思う。企業は技術的に進歩しているが、生活者、特に若い人は昔の暮らしぶりがわからないので理解が深まる。

【神戸を支えるまちの形成について】

(都市交通網について)

- ・ P60 地図では、ウォーターフロントには交通網が整備されている。みどりのゾーンや田園ゾーンはつながってない。将来を見据えて行き来しやすいような交通網を考えていただきたい。
 - ・ P65の広域幹線道路ネットワークの道路整備に「湾岸線西伸部」が入っているのか。市からその後の話しがあまりないので確認したい。また、「スーパー中枢港湾」は「国際コンテナ戦略港湾」に変わろうとしている。この表現はどうなるのか。

(事務局)

- ・ 湾岸道路西伸部は、P60 図面の計画中路線として、ポートアイランドと六甲アイランドを結ぶところから西方向へ延びている西伸部として表記している。また、スーパー中枢港湾、国際コンテナ戦略港湾の記述は、国等の動向に注視して対応していく。

【都市の効率的経営、都市戦略等について】

(行財政経営の記述について)

- ・ P70 課題解決のためにはスピーディーで柔軟な対応ということが可能にすることが必要という記述で終えずに、行政の縦割りや単年度予算執行という縛りもあるが、行財政計画の中で、予算の基金化や市民のチャレンジ的な事業、ソーシャルビジネスに対応できる予算組み等も盛り込んでほしい。

(あるべき姿について)

- ・ 2025年の神戸のあるべき姿のイメージがわきにくい。まちづくりや経済についても、もう少し全体構成や考え方がみえるよう構成を考えていただきたい。例えば、経済については、暮らしを支える経済やものづくりの経済に分かれて書かれている。まとめてはどうか。

(デザイン都市・神戸について)

- ・ 2025年の神戸の姿としてどこをめざそうとしているか。今までの計画や他都市にはない「デザイン都市をめざす」ということではないか。デザインという言葉は入っているが「まち」「ものの付加価値」のレベルではなくまち全体が生活、経済も包含する、革新を与えていく文化技術として使う発想が必要。
- ・ 「豊かな地域コミュニティ」と「デザイン」を掛け合わせたときに、新しい神戸らしさが出てくると思う。その点を構成や内容に盛り込んでいただきたい。

(ダイバーシティについて)

- ・ 全体を通して、たくさんの方が書かれているが、それらを実現する原動力は第7部に書かれているダイバーシティ・マネジメントだということがわかった。例えば、グローバリズムの中では英語教育だけでなく教員の国際教育も必要だろう。行政自らダイバーシティ・マネジメントを進めるという大きな考えがあれば、実現に向けての大きな判断基準となる。

(全体の構成、記述について)

- ・ 「～進めます。」「～促進します。」との記述が多くあるがどう進めるか。神戸市は他都市に先駆けて行政改革を進めて評価を得ており、また、市民生活や産業では市民、企業が自主的に取り組み、先駆的な役割を果たしている。努力をした結果として、市民や団体が将来に自信を持てるようまとめられるのがよい。

- ・ 引き続き、会長からその他報告事項として、「各区計画の検討状況（中間報告）（資料5）」及び「第4次基本計画における未達成事項等（資料6）」、「神戸市における「都市戦略」等の概要（資料6参考資料）」、「今後の審議日程（資料7）」の説明を求め、事務局より資料に基づき説明を行った。
- ・ 会長により、本日の議事の終了が告げられ、今後、部会ごとに「神戸づくりの指針素案（資料4）」について議論を進め、第3回総会にて審議会中間案としてとりまとめていくことが確認された。
- ・ 会長により閉会が告げられ、本会議は終了した。

以上